

意気



2006年4月25日 Vol.334

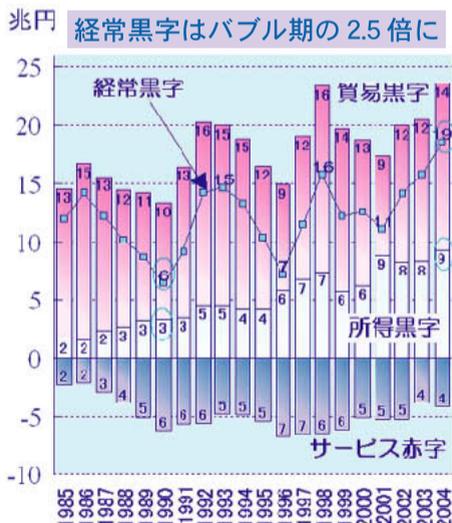
(社)三原青年会議所 3月例会開催報告



(社)三原青年会議所 誇りあるまち創造委員会では、「ぶちええ三原」を合言葉に、三原市民が興味を持ちながらまちづくり活動に参加していただけるように取り組んでいます。今例会では、講師に日本政策投資銀行の藻谷 浩介(もたにこうすけ)氏をお招きし『今の三原?今後の三原?どうするんだ!!』というテーマで、外部の方から見た三原市の状況を豊富な情報と数値でわかりやすく説明していただき、今後のまちづくり活動を進める上での手がかりとなる講演をしていただきました

「本当に日本の景気は悪いのか?」

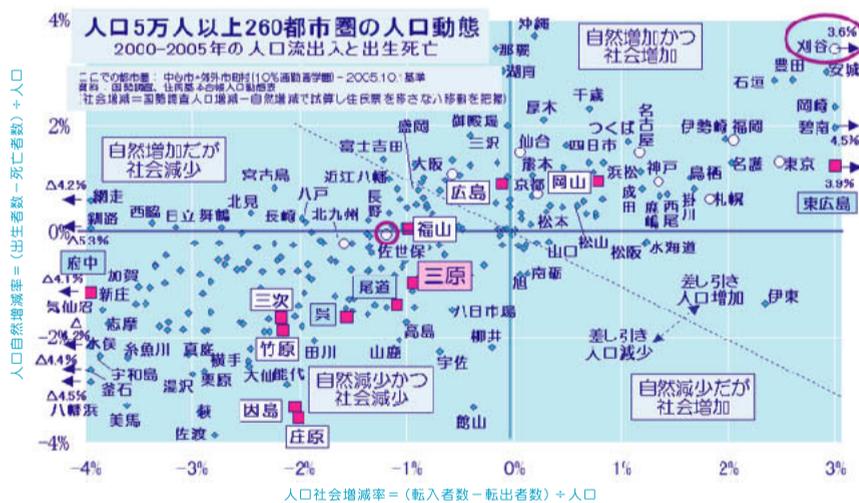
バブル景気後から最近まで、日本は不景気だと言われ続けてきました。しかし、バブル期以降も輸出量は増え続け、現在では金融資産も含め23兆円もの黒字となっています。これだけ外国からお金を稼ぎ続けていたはずなのに、マスコミは最近まで「日本の不景気は…」と言いつけていました。はたして本当に全国一律に不景気で、地方に景気の回復は及んでいなかったのでしょうか。答えは、今の景気は全国一律ではなく、地域によっては好景気のところと不景気のところがあります。そして、地域格差は確実に広がっています。では、三原はどちらに含まれるのでしょうか。また、この地域格差を埋めることは出来ないのでしょうか。



三原と全国の都市圏の成績表

国勢調査から試算した都市圏の最新の人口動態

ここでの都市圏: 中心市+周辺市町村(2000年国勢調査に基づく10%通勤通学圏) - 平成合併後
三原都市圏: 合併後の三原市と一致/東広島と呉は広島都市圏の一部/尾道と府中は福山都市圏の一部



「今の三原は劣等生…?」

まちに魅力、勢いがあると、転出者より転入者が多くなるのではないのでしょうか。これを「人口社会増減率」という数値で測ってみることにします。

2面につづく

みたがきいたが

◆桜の季節も終わりを告げ、日々暖かさがまし、夏が近づいていることを覗かせる今日この頃、日本は四季の移り変わりがはっきりした美しい国だと感じている。しかしながら近年、異常気象による生態系の変化等の報道がなされる度、この美しさを後世に引き継いでゆくことが出来るのか不安を

感じる。◆社会生活を営んでいる私たち人間は、自分の庭だけを守っているだけではないと考えるのである。市民一人ひとりがまちのことを思い、何らかの形でまちづくりに参加する必要があるのではなからうか。子どもの教育に関していえば、自分の子どものみならず、地域の子どもの目に向けてゆく必要があるのである。そうでなければ、愛する我が子は殺伐とした環

境の中で不利益を被る事になるかもしれない。また企業においても、その存在は社会に必要とされているからこそ成り立つものである。それ故企業は私利私欲に走ることなく、社会に貢献する義務を背負っているという意識を持たなければならない。◆公(おおやけ)という言葉は行政とイコールであると捉えられがちであるが、本来、公とは倫理観と道徳心に基づいた私

達市民一人ひとりが持つ公共心の上になり立つものであり、行政はそれに基づいた職務であると捉えられるのではなからうか。このまちの将来を他人任せにするのではなく、一人ひとりが公共心を意識し行動することなくして、愛する郷土、ひいては美しき日本、美しき地球を次の世代に引き継ぐことは出来ないのではなからうか。